

分科会で意見交換

東北スポーツボランティアサミット

第7回東北スポーツボランティアサミットin

福島は12日、福島市土湯温泉の観山荘で始まった。13日まで。

NPO法人うつくしまスポーツルーターズの主



参加者が意見を交わした分科会

催。青森を除く東北5県と新潟、栃木、茨城、埼玉の各県から大規模なスポーツ大会の運営を支援しているボランティア約70人が参加している。

9グループの分科会に分かれ、会員の高齢化問題や会員数を増やす方法などについて意見を交わした。福島大人間発達文化学類の白石豊教授が「ささえるスポーツの楽しさ」と題して基調講演した。

最終日の13日はパネルディスカッション形式の研究などを行う。

スポーツ支援の活動報告



サミットで講演する白石教授

東北地区で活動するスポーツボランティアが一堂に会する「東北スポーツボランティアサミットin福島」は12、13の両日、福島市で開かれており、出席者が活動報告や技術の研さんなどに励んでいる。

福島で東北地区サミット

東北各地で毎年開かれており、県内では初開催。東北や関東から約70人が参加した。

初日は白石豊福島大教授が「ささえるスポーツの楽しさ」をテーマに基調講演した。メンタルトレーニングの第一人者の白石教授は、元サッカー日本代表監督の岡田武史さんとのエピソードなどを交えながら、スポーツ指導の在り方などについて解説した。事例発表なども行われた。13日は「スポーツボランティアの楽しみ方、生かし方」と題したパネルディスカッションなどを通して、今後の活動についての提言も行う。